

第1回 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会  
議事録（要旨）

日時：令和5年9月29日（金）15：00～17:00

場所：洞爺湖町役場 3階 防災研修ホール

出席者：

番号	区分	出欠	団体名	氏名
1	学識経験者		酪農学園大学	吉田 磨
2	産業団体		とうや湖農業協同組合	佐藤 憲一
3	〃	欠	いぶり噴火湾漁業協同組合	福島 浩二
4	〃		洞爺湖町商工会	山戸 準也
5	〃	欠（代理）	一般社団法人洞爺湖温泉観光協会	高橋 洋一 （藤川 清志）
6	〃		特定非営利活動法人洞爺まちづくり観光協会	田所 哲夫
7	〃		洞爺湖温泉旅館組合	来栖 正光
8	教育関係		洞爺湖町校長会	鈴木 恭朗
9	金融機関		伊達信用金庫	橘 聖史
10	交通関係	欠	道南バス株式会社	寺本 信也
11	エネルギー 供給事業者		北海道電力ネットワーク株式会社室蘭支店	菊地 鉄也
12	その他町長 が認める者		洞爺湖町環境審議会	室田 欣弘
13	〃		ウイメンズネットワーク洞爺湖	青木 佐智子
14	〃	欠	洞爺湖町自治会連合会	吉田 聡
15	〃	欠	洞爺湖町自治会連合会	依田 信之
16	〃		洞爺湖町自治会連合会	堀家 潔
17	行政		洞爺湖町	八反田 稔
18	〃		洞爺湖町	若木 涉
19	一般公募			三上 みゆき
20	〃			荒町 美紀
21	〃			宮本 好
—	オブザーバー	オンライン	環境省北海道地方環境事務所 地域脱炭素創生室室長補佐	青地 絢美
—	〃	欠（代理）	北海道胆振総合振興局 保健環境部くらし・子育て担当部長	木内 武雄 （伊東 千春）

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 委嘱状の交付
4. 出席者 紹介
5. 議題

(1) 委員長・副委員長の選任 について

○委員の互選により吉田磨委員を委員長、室田欣弘委員を副委員長に選出した。

(2) 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定の経緯及び考え方について

○事務局（洞爺湖町経済部環境課）が資料（洞爺湖町地球温暖化対策実行計画〈区域施策編〉策定の経緯）をもとに説明を行い、承認された。

(3) ゼロカーボン実現に向けた実行計画策定の進め方について

○事務局（バイオマスリサーチ株）が資料（ゼロカーボン実現に向けた実行計画策定の進め方について）をもとに説明を行い、承認された。

【質疑】

●資料 3 ページの図の更新について

吉田委員長：資料 3 ページの図は、IPCC 第 6 次評価報告書（AR6）にある新しいものを使ったほうがいいのではないか。

事務局（バイオマスリサーチ株）：新しいものに更新する。

●地方公共団体実行計画（事務事業編）との関連について

吉田委員長：地方公共団体実行計画（事務事業編）との兼ね合いはどうか。

事務局（バイオマスリサーチ株）：町全体の CO<sub>2</sub> 排出量の推計値を出す中で、その公共部門と事務事業編との整合性をとっていく。個人的意見にはなるが、今回の計画策定の中で出た意見によっては、事務事業編の改定に向かうことも考えられるのではないか。

吉田委員長：事務局と委員会でキャッチボールしながらお互い高めていく形か。

事務局（バイオマスリサーチ株）：はい。

●取組の実行にかかる予算について

吉田委員長：この事業で決めていくことについての予算はどうするのか。

事務局（洞爺湖町経済部環境課）：事業によって国の補助金・交付金を活用できるものもある。まずは町民・事業者の意見を踏まえて、町として取り組む内容を決め、それに見合った国の支援等を活用しながら予算を確保していきたい。

吉田委員長：ZEB や ZEH も出てきている。例えば庁舎の ZEB となると、町民にとってはショールームのような形でゼロエネルギーの建物が建てられることがわかるかもしれない。

そういう取組もできたらいい。

#### (4) 町民・事業者向けのアンケート調査の実施について

○事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（エネルギー消費量と環境意識に関するアンケートの実施について）をもとに説明を行い、承認された。

##### 【質疑】

##### ●事業者用アンケートについて

菊地委員：事業者用アンケートのエネルギー年間使用量の項目から「軽油」が抜けているが。

事務局（バイオマスリサーチ㈱）：最終チェックで軽油がないことが分かり、足したものを配布している。

##### ●定点モニターの設置について

鈴木委員：アンケートに加えて定点モニターということで、全世帯プラス決まった方々に一定の期間答えていただいてはどうか。

事務局（洞爺湖町経済部環境課）：計画策定後、計画を回していく中で、ご提案の内容は非常に重要な課題と認識している。計画推進の中で町としてしっかり取り組んでいきたい。

##### ●町のHPやSNSを活用したアンケートの周知について

宮本委員：アンケートのQRコードは役場のホームページなどにも載せるのか。町が運営しているSNSで発信するのも子育て世代などにはすごく効果的と思っている。

事務局（洞爺湖町経済部環境課）：回覧日に合わせた町からのLINEでアンケートの実施についてPRし、回答をお願いしたい。町ではこのほかにも数多くのSNSを活用しているので、そうしたものを使いながらPRに努めていきたい。

##### ●アンケート回答率の向上について

田所委員：アンケートは全戸に配布するのであれば、自治会や回覧、そうしたものも併用して、少しでも回答率を上げる努力をしていくべき。

事務局（洞爺湖町経済部環境課）：SNSに加え、毎月10日にやっている回覧にも折り込みで入れたい。同様にホームページでも周知していきたい。

## 6. 意見交換

○事務局（バイオマスリサーチ㈱）の進行により、「脱炭素・再エネ・省エネについて」をテーマに意見交換を行った。

##### ●北海道環境事務所・青地オブザーバー

○（脱炭素に向けた議論の進め方については）一般の委員を含めて幅広い関係者が参加して

いるので、最初は自由な発想で（意見を）出していくのがいいだろう。先ほどの SNS の活用の話もすごく良いと思う。

- 脱炭素施策は一律に目標を定めるのではなく、どうしたら持続可能で意識的に続けられそうかという観点も必要。
- 環境省は脱炭素と地域課題の同時解決というのも掲げており、地域課題の方から発想を膨らませていく方法もある。例えば、今は暖房費や電気代の高騰という課題に対し、最初の投資は必要になるが、家の断熱性能を高めることで灯油暖房費を抑えられる。
- 地域に合わせた取り組みという点で、洞爺湖町がどういう町なのかから入っていくのも大事。洞爺湖町では何が自慢なのか、誇れるべきところ、住みやすいところ、逆に住みにくいところなどを一定程度出してから、どうしたら脱炭素に絡められるかを考えると、自由な発想が出てきやすい。

#### ●胆振総合振興局・伊東氏（木内オブザーバーの代理）

- 道は「ゼロカーボン北海道」を掲げて、ゼロカーボンを目指していくため様々な施策を行っており、胆振管内でも「ゼロカーボン胆振」というチームをつくり、ゼロカーボンに関する情報交換などを進めている。
- 洞爺湖町が町の中の何を使ってゼロカーボンを目指すのか。道内有数の温泉があり、農業も豊かで、そして必ず備えなければならない災害がある。それらをミックスしてゼロカーボンを目指すのは非常にいいこと。
- 町民に動機づけをする施策が重要。アンケートについても動機付けが必要で、どうして回答が必要なのか丁寧に説明していったほうがいい。

#### ●室田副委員長

- 洞爺湖町は海があり、山があり、温泉があり、国立公園を整備してという所なので、地域のことを考えると、安易に風車や太陽光パネルに走るより、まずは町が持つるポテンシャルは何なのかを見つめなおし、抑制するところを抑制し、利活用できるところは進めていくという方法をとった方がいい。
- そうした中で、費用対効果の部分でどうかはわからないが、例えば廃棄物の活用といった再エネもあり得るのでは。

#### ●佐藤委員

- JAの野菜センターの2施設に雪蔵貯蔵庫があり、例年2月に雪を入れて、隣の施設に入れた馬鈴しょなどを雪だけで冷やしている。最近の高温によって雪が解けるスピードが早くなってきているが、入れる雪の量にも制限があるのが課題。
- ゼロカーボンに向けては、今のところこれという動きはないが、資料の中にあった作物残渣のエネルギー化は、やっていただけたらいい。最近の高温によって畑の中で腐ってしま

った作物、選別ではじかれたものをうまく再活用してエネルギーにできるのであれば。

- 農薬メーカーから提案を受けたこととして、畑の中で肥料が多い部分、少ない部分をマップ化できるシステムがあり、肥料やトラクタで使うエネルギーの削減につながる。そうしたスマート農業にも力を入れていきたい。

#### ●来栖委員

- 経営するホテルではヒートポンプを導入し、A重油を3割強削減できている。電気はモニターでデマンド管理をしている。
- 組合に加盟しているホテル・旅館は日頃のランニングコストを抑えるため、新しい設備には敏感であるが、省エネにつながる大きな機械は意外と少なく、例えばボイラーなどもそれほど効率が変わっていない。ホテル・旅館はLED化などこの十年でやれることはやってきている。
- アンケートは全員にする必要はないのではないか。意識のある人からきちんとした数字を挙げてもらい、これだけ抑えられたという結果が見えるように、ゲーム化するなどして、その数字を下げる仕組みを提案することで意識が高まる。

#### ●山戸委員

- 商工会では、町から予算を得てリフォーム補助金をやっている。今年度の受付分から、省エネに絡む照明のLED化のリフォームなどに関しても補助対象としている。
- 商工会自体もSDGsの宣言をし、省エネに関しても考えてきている。今の利益状況下では、会員はLED化などの設備更新も大変そうだが、何か補助金などがあれば、会員に紹介する取り組みをしている。

#### ●田所委員

- 例えば農業でも稲わらの活用や、牛のふん尿を使った発電などいっぱいあるが、それがうまくいっている所が北海道でどれほどあるのか。どのくらい効果があったのかなどを具体的に「見える化」することが、推し進める原動力になるのではないか。
- 観光協会もどのように協力していけるのか、今まであまり考えてなかったことも考えなくてはいけないと思っている。

#### ●鈴木委員

- 太陽光パネルを設置してこんな取り組みしているということをお子に啓発したり、総合的な学習の時間を使った教育はやっていけると考えている。
- 移動する際は必ず教室の電気を消すなども日常的に行っているが、町としてこうした取り組みをしているので、一人ひとり意識してやっていきましょうという教育もできている。

### ●橘委員

- 伊達信用金庫では、地域支援チームを作って、補助金と兼ね合わせた融資、もしくはその補助金の申請についての支援を行っている。ただし現状、ゼロカーボンに関しては、いろいろな支援策はあるが、融資につながるというより補助金中心に動いている状況にある。
- 今の経済情勢の中では設備投資より先に、お金をかけずにどのように省エネするかが進んでいる状況だが、だいぶ周知はできていると思う。ただ、これから経済状況が変わり、いろいろな面で収益性も変わってくれば、違ってくるのではないか。

### ●菊地委員

- ほくでんグループとして 2050 年のカーボンニュートラルに向けて、供給面では電源の CO2 フリー、需要面では電化の促進に取り組んでいる。北海道の需要を上回る再エネの申し込みを受けている状況であり、需要の創出が必要になってくる。
- 地産地消のエネルギーという点では、われわれは送配電事業をしているので、地域マイクログリッドなど、そうしたところでお手伝いができれば。
- 洞爺湖町では家庭用の灯油暖房からの CO2 も結構大きいと思う。われわれとしては電化という話で持っていかざるを得ないが、例えばエアコンを入れて灯油の消費量を減らすとか、ホテルのボイラーの電化、蓄電池代わりに EV を使うなどにより、増え続ける再生エネルギーに対する需要の拡大ができると思っている。
- 洞爺湖温泉でバイナリー発電をしていると聞いているが、地熱発電は具体的に今後検討に入るのか。火山があるので大規模な地熱発電のポテンシャルがあると踏んでいるが。

### 事務局（洞爺湖町経済部環境課）

- 地熱発電について資料に記載しているが、書いてあるものを全て取り組んでいくのではなく、まずは全ての可能性を洗い出し、皆さんで協議を進めていきながら、2050 年に向けて検討していく考えであるので、ご理解いただきたい。

### ●青木委員

- アンケートをできるだけたくさん回収することを考えなければならない。
- 今年は以上に暑かったが、それでも他人事とと思っている人は多いだろう。この地球温暖化が他人事ではなく、自分自身にも降り掛かること、暮らしや仕事に関わる身近な問題であることがわかるように、アンケートの前の文章に入れていただければ。
- 家計簿をつけている人ばかりではない。「これなら書ける」というアンケートにして、結果的に使いものにならない資料にならないようお願いしたい。

### 事務局（バイオマスリサーチ株）

- アンケートには案内文として説明の紙をつけているが、本日発送してしまっているのに、追加で何かアナウンスできるのであれば考えていきたい。何とか回答率を高められるように頑張っていきたい。

#### ●荒町委員

- アンケートでも、一つ難しい言葉で引っかかると、答えたくなるのが町民の気持ちだと思う。ゼロカーボンや省エネ、再エネとは何なのか、小学生にもわかるぐらいに噛み砕いた説明があったほうがいい。しかし今回の資料はとてもわかりやすく、理解が深まった。
- 今後、話を進めていくに当たって、策定委員会の中で決めるのは大切だが、町民を置いてきぼりにしないような施策を策定していただきたい。

#### 事務局（洞爺湖町経済部環境課）

- なぜ計画を2カ年で作るか、われわれの考えとしては、令和5年はゼロカーボンに対する町民の理解を深める年だと捉えており、令和6年度で、実際にこの先の洞爺湖町について考えていくというスケジュール感でいる。
- この後、アンケート結果をもとに、町民学習会を洞爺地区、温泉地区、虻田地区で開催しまして、来年は中学生や高校生向けの学習会、また計画策定前の最後に町民学習会を再度計画している。そういった中で町民に少しでも脱炭素、省エネの理解を深めていただきたいと考えている。

#### ●宮本委員

- 再エネや削減についての話が多かったが、どちらかという自然環境保全の方が気になっている。鹿が森林を荒らしているとか、海海藻が減っているとか、自然環境の保全の方について聞きたい。

#### 事務局（洞爺湖町経済部環境課）

- 洞爺湖町では景観条例を定めており、国立公園もあって、太陽光パネルや風車なども設置できる場所、できない場所がある程度住み分けされている。景観への配慮を加味しながら、今後その太陽光パネルを設置する場所のゾーニングなども考えていけたら。
- 再エネ導入と合わせて町では今年度から、町有林の整備も進めている。排出・吸収の両方の観点から一体的に進めていかなければ、2050年のカーボンニュートラルを実現できないと考えている。

#### 吉田委員長

- 地球温暖化に対しても、ただ二酸化炭素を吸収するとか、電気を作るということではなく、（自然環境と）共生していかなければいけない時代になってきた。森を切って太陽光パネ

ルを付けたのでは全く意味がない。

- 道内でも貴重な湿地がパネルの設置場所に選ばれてきてしまっているが、大事な生物多様性の保全の場所でもあるので、太陽光パネルが悪いのではないが、やはり設置する場所を考えなくてはいけない。
- パネルを無くして、二酸化炭素をどんどん出し続けるのがいいというのも当然ありえないので、どう両立を図るかをいろんな立場で検討していかなければいけない。

## 7. その他

- 事務局（洞爺湖町経済部環境課）が第2回策定委員会は12月に開催予定であることを説明した。

## 8. 閉会